

## 答 辞

たいへん厳しかった寒さもようやくゆるみ、辺りの木々の芽吹きや桜の蕾の膨らみに、いよいよ巡り来る「春」を感じる時期を迎えました。

さて本日は、学長先生をはじめ諸先生方並びに御来賓の皆様に御臨席を賜り、このように盛大な修了式を挙行していただき、心より感謝申し上げます。また学位記授与にあたり、皆様から心のもったお祝いの言葉や御激励をいただき、修了生を代表して厚く御礼申し上げます。私たち一同は、連合農学研究科入学以来、配置校の先生方、他大学の副指導教員の先生方の御指導を受けながら、それぞれが掲げた研究テーマに、ひたすら取り組んで参りました。三か年の在籍の間には、実験が思うように進捗せず焦りを覚えたり、研究遂行上、幾多の困難が立ちはだかり、途方に暮れることもしばしばありましたが、その都度、指導教員の先生に叱咤激励を賜り、研究の取り纏めにあたり、為すべき事柄や、進むべき方向性を示唆していただきました。本日、晴れて博士の学位を取得することが出来たのは、ひとえに指導教員をはじめ諸先生方の適切かつ暖かな御指導、御鞭撻の賜であります。衷心より感謝申し上げます、敬意を表します。また、在籍中、支えていただいた職場の同僚、家族、友人など関係各位にも心より御礼を申し上げます。

先生方の御指導を得て、懸命に取り組んだ実験とデータ解析、学術誌への論文投稿、そして博士学位論文作成の作業は、私たちの人生に於いて誠に得難い貴重な体験であり、大きな自信につながりました。東京農工大学大学院連合農学研究科で学んだことを大いに誇りに思います。

しかし、私たちにとって、学位取得は最終目標ではなく、人生の新たなる出発点と考えます。十九世紀のかの偉大なる生物学者ルイ・パスツールの言とされるものに、「Chance favors the prepared mind;チャンスは準備された心に降り立つ」という言葉があります。私たちはこの度の学位取得を機に、今後も不断の精進を重ね、研究のみならず総合的な人間力を高め、これから巡り来るであろう活躍の好機を鋭敏に捉え、もって自然科学や社会の発展のために貢献することをここに堅く誓うものであります。

最後になりましたが、東京農工大学大学院連合農学研究科のさらなる発展と、御臨席の皆様方の御健勝と御活躍を心より御祈念申し上げます、答辞とさせていただきます。

平成二十二年三月十五日

東京農工大学大学院

連合農学研究科代表

生物生産科学専攻

亀井忠文